

安部 祐生

ABE, Yuki

軽さへ向かう作品の試み

Practice in Pursuit of Lightness

布を端と端と持って畳むとしてもズレてしまう。この不揃いな余りは、求めた形からはみ出てしまい不都合な物として多くの場合は余りを裁断し捨ててしまう。しかしその余りによって、布が元の形を保っている。この余りがもの自体であり形を支え、折りや挟まりによって同時に別の何

かを成り立たせ、あらゆる形に動く有余として存在している。それは、既定の外側ではみ出してしまった物で、風船のような軽やかさとよく似ている。

そんな重力から逃れられないことを知っているのに軽さを知るために私は手を動かしている。



包み紙 / Candy Wrapper
アクリル / スライドドア / Acrylic on sliding door / 216 × 80 cm
火おこし / Start a Fire
プルジャンプルー / キャンバス、クランプ
Prussian blue on canvas, clamps / 40 × 50 × 40cm



空の青 / Blue of Noon
油彩 / キャンバス、バインダー / Oil on canvas, binder / 27 × 56 × 23 cm



ラジオスター / Radio Star
油彩 / キャンバス、クランプ / Oil on canvas, clamps / 73 × 60 × 60 cm



ガワから空を見る / The sky from the far side アクリル、スプレー、綿布 / Acrylic and spray on cloth / 250 × 203 cm
薪木 / Wood 油彩 / キャンバス、クランプ / Oil on canvas, clamp / 32 × 24 × 24 cm

郁 昊天

YU, Haotian

記憶と画像の絵画研究

Research on the Painting of Memory and Image



Some Absurd Days

油彩 / キャンバス / Oil on canvas

194 × 260 cm / 2022.12

現在の芸術分野では、画像資源を利用した芸術実践が一般的な現象となっている。画像は生成以来絵画と消しきれないつながりがあり、絵画自体は画像生成を製造する方式であるといえる。写真が出現する前に、西洋絵画は伝統的な古典的な写実を追求し、造型が厳格で、イメージがリアルである。写真が出現した後、西洋の伝統的な絵画方式を変え、各種の芸術流派の育成を促進し、一部の画家は伝統絵画から表現、抽象形式に移り始め、もう一部の画家は画像を媒体とし、画像中の感情に基づいて、歴史を伝え、記録し、甚だしきに至っては最も繊細でリアルな描写を行い、画像を超えた。科学技術の発展に伴い、現代撮影制作技術のレベルは絶えず向上し、画像と絵画の間の相互作用、相互融合、撮影によって作成された画像は記録ツールとすることができるほか、画家の視野を開拓し、画家に新しい観察方式を発生させ、新しい感覚を味わうことができる。画像のこのような特性は、現代画家の創作において重要な創作手段とインスピレーションの源となっている。画家は画像時代の発展で思考パターンや創作方法を変えている。

私の作品は、あくまで個人記憶の検討を中心に、かつての映像資料と新聞とアルバムなどの現代メディアを通して記憶を探索し、創作を行っている。人間は知覚によって世界とつながり、コミュニケーションの過程を自分の意識、

無意識の中に記録する。記憶はここで過去と未来につながり、記憶や画像という絵画表現は複雑な感情芸術性を表現することができる。

画像には時間が凝縮されており、過去の瞬間が記録されている。絵画は感情の表現であり、感情の伝達である。幻想は自分を解放し、現実の境界を曖昧にしている。画像は感情を伝える媒体であり、画像には歴史的思い出が記録されている。私は画像から伝達された情報を借りて、中の抽象形式を抽出し、絵画言語で感情を表現し、自分を表現し、ボディーランゲージを通じて抽象的な記号を組み合わせ、新しい画面を形成し、この過程で、私の情緒は釈放されるだけでなく、自分に合った絵画スタイルを形成し、視覚的に異なる審美をもたらし、それによって異なる感情を伝えた。

空間と時間の中に浮遊し、奇妙かつ幻想的な物語、不規則で、寒い光の中を静かに流れ、すべての人が現実という舞台の中で逃げられない荒唐無稽を演じている。

生活は常に変化している、私は絵を通してこれらの変化に学習し適応しているのでしょう。

モダニズムの大きな流れの中で、私は相変わらず具象絵画に惹かれている。簡単な叙事性と意識的に選択されたテーマは、多少強迫性はあるが冒険心に欠けていない。

市川 茉友子

ICHIKAWA, Mayuko

感覚を実感すること

Realize a Sense

自分を探す作業をしているのかもしれない。



留める / Remember

ミクストメディア / Mixed media / サイズ可変 / Variable size

江上 夏希

EGAMI, Natsuki

「描く」を描く

Paint the Act of Painting



描くという海 / The Sea Named Painting
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 130 × 648 cm

私は今まで、制作の中で自分のパーソナリティを問い続けてきた。その「自分とは何たるか」を問い続ける作業と並行して、制作をする中でのエゴイズムとして続けてきたことがある。それは「絵を描くこと」だ。

「絵を描くこと」「絵を描きたい」という欲動は、唯一私が誰に指導や提案をされた訳でもなく、強い我として貫き通していることだ。この「描きたい」という欲動は、私を絵描きたらしめる、絵画制作の根源的なものだ。

ならば、私は「描くこと」にこそ向き合い、「描くこと」を描くべきである。

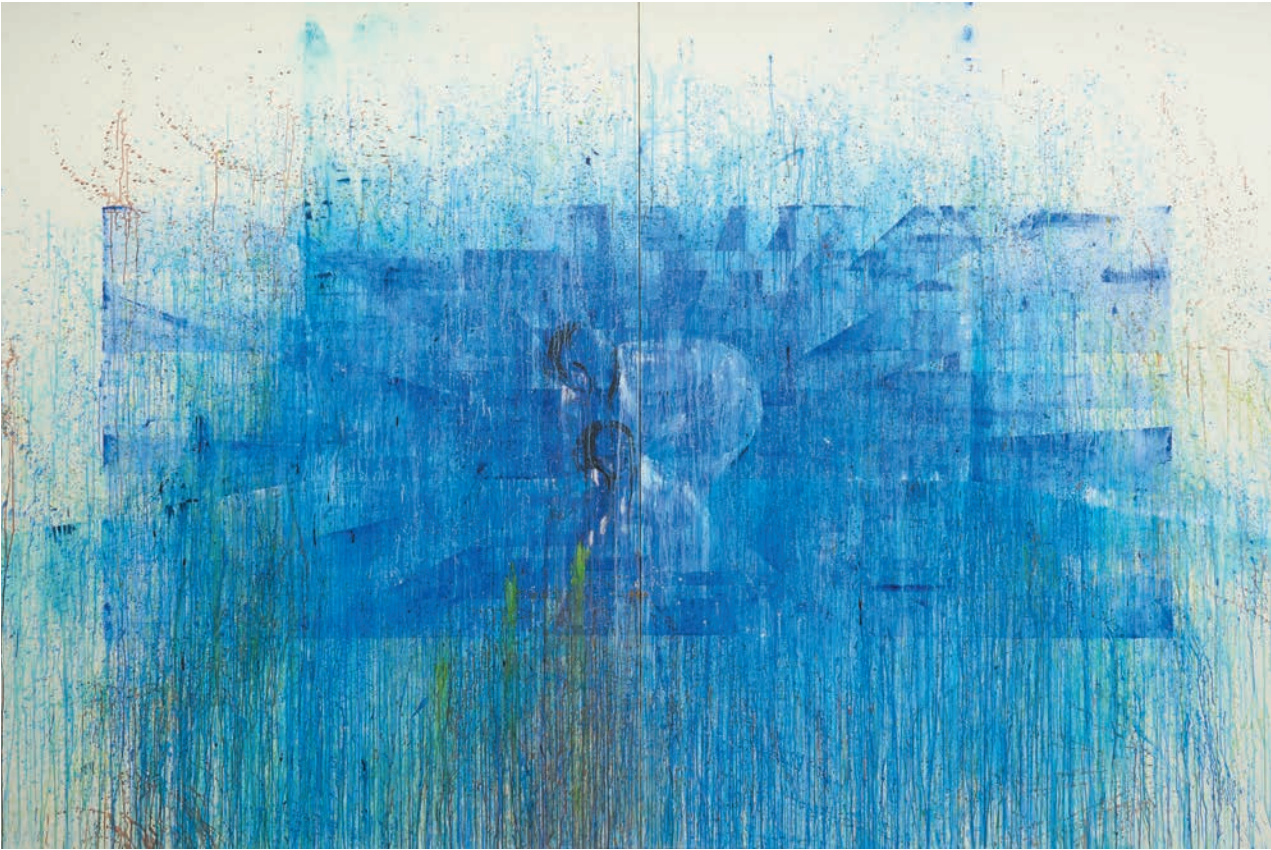
大塚 里菜

OTSUKA, Rina

幼い頃に見た田植えの夢を今の私が表現する

The Current Me Expresses the Rice Planting Dream I Had as a Child

田植えの夢を元にした作品は作品それぞれに違いはあるが幼い頃に見た夢を軸に制作しているという共通点がある。また、幼い頃に見た田植えの夢という「過去に見た夢」を軸に制作をしているが、田植えの夢を元にした作品は「過去に見た田植えの夢を現在の私はどう捉えるか」、「過去に見た田植えの夢を捉えた結果、現在の私は何を表したいか」といった今を表している作品である。過去を振り返りつつも今私は何をしたいのかを忘れてはいけない。



《田植えの夢と夢を構成する無意識》を見て幼い頃に見た夢を思い浮かべた
Seeing "The dream of rice planting and the unconscious that constitutes the dream" reminded me of a dream I had as a child
アクリル / キャンバス / Acrylic on canvas / 259 × 388 cm



幼い頃、四角い空間の中で田植えをしている二人を見ているという夢を見た
When I was young, I had a dream in which I saw two people planting rice in a square space
アクリル / キャンバス / Acrylic on canvas / 194 × 518 cm



幼い頃に田植えをした場所を見て幼い頃に見た田植えの夢を思い出した
Seeing the place where I planted rice when I was young reminded me of my childhood dream of rice planting
アクリル / キャンバス / Acrylic on canvas / 130.3 × 162 cm

川邊 藍生

KAWABE, Aoi

経年による記憶の凝縮、及びその分解活動について

Condensation of Memory Over Time and Its Decomposition Activities

私にとって創作活動とは、自身の精神的安寧を保つためのものという側面が大きい。絵具を画面に付着させるという極めて作業的行為が、何故私に癒しや落ち着きを与えるのだろうか。それらの起因は私自身が育った環境や記憶にあると考え、研究のテーマを「経年による記憶の凝縮、及びその分解活動について」とした。

修了制作では懐古の快感を遠ざけることを動機とし、自身が依存していたPCのワークスペースに準えて作品を構

成した。私が絵画を作り上げるプロセスは、不快な記憶を探るところから始まる。とりとめもなく移り変わる記憶の断片は、ウィンドウがひしめくPCのワークスペースとよく似た構造をしていると感じた。人間の記憶能力と違い、電子の世界は忘却が起こらない。

よって、これらを描く苦痛が懐古の快感を消してくれるとこの時は信じていた。



address_プログラムへの関連付け

address_File associations

ミクストメディア

Mixed media

350 × 910 cm

金 珂雪

JIN, Kexue

海と作品について

The Sea and My Art Works

複雑なことは考えられないので、とにかく描くときに楽しいものが良い。何か深い考察とかも必要なく自分はこの絵が「好き」か「どうでも良い」か、そんな感情的で良いと思う。私は自己満足で絵を描いているので、まず自分のやる気が出るようなモチーフを探す必要がある。マイナスな気持ちでは作業できないので、楽しいこと印象に残ったものを何も考えずに描きたい。何かを問いかけてくる作品は私以外がやっているから、もういいでしょう。自

分が楽しめるモチーフを探しに行く時間の方が大切であり、描く時間よりもそちらの方が長くなってしまふ。

今回は小笠原諸島に行ってきた。ダイビングをやっていると必然的に海に近い島への興味が湧いてくると思う。まだ色々描きたい島の思い出はあるが、絵画はゆるりとやっている方が性に合う。

最後に、絵画制作のモチーフを考えていくうちに辿り着いた、「海」なので無駄ではなかったと思う。



往く / Go
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 283 × 91 cm



至る / Until
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 182 × 283 cm



去る / Leave
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 283 × 91 cm

笹山 由香理

SASAYAMA, Yukari

風景画の中の自己

Self in the Landscape

日々を過ごす中で、他者による自身の侵食を感じる。便宜上、都合上、他にも様々な理由づけによって、自身の感情を無視して相手に合わせてしまうことの累積が、自己の喪失を引き起こす。そうして自分の姿が分からなくなったときには、自身の外部＝目に見えるものに導いてもらうことが多い。

目に映るものと一対一で対峙する。スケッチやドローイングを重ね、自身が風景に何を見たか、何を得たのかイメー

ジを膨らませ、絵画として自分の外に出す。それは私にとって、自己の明確化であり崩れかけた自己の再構成の作業なのだ。

他者が存在するから自己が成立する。外部を見て内部を知る。風景という外部に対して見失った自己という内部を発見することは、他者の中で生きることのひとつの支えとなっている。



解熱 / Decline of Fever
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 227.3 × 181.8 cm



他人事 / A Stranger
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 227.3 × 181.8 cm



返事 / An Answer
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 259 × 194 cm

周 洪鑫

ZHOU, Hongxin

最近のこと

Recent Things

時間の経過とともにさまざまな情報を取り込み、いろいろな経験を経て、持つようになった感覚。それらは私の人生と深く繋がり、あらゆる方向から生まれてくる。そこには常に自分の存在そのものとの緊張関係があり、私自身を作っていくことになる。

ある時は日本の美しさに触れたいと思い、ハイキングに行ったり、いろいろなところを旅行した。この数年、経済が良くないので、良い仕事はなかなか見つからなかった。コロナに感染した時は、体が辛く、突然、いろいろな思いがこみ上げてきた。その時制作した「最近のこと」は、ストレートに自分自身の状態に反応して、表現していくことが私にとって、とても重要だった。まさに自分の内的な作品だ。



最近のこと / Recent Things
ミクストメディア / Mixed media
190 × 210 cm



最近のこと / Recent Things
ミクストメディア / Mixed media
210 × 280 cm

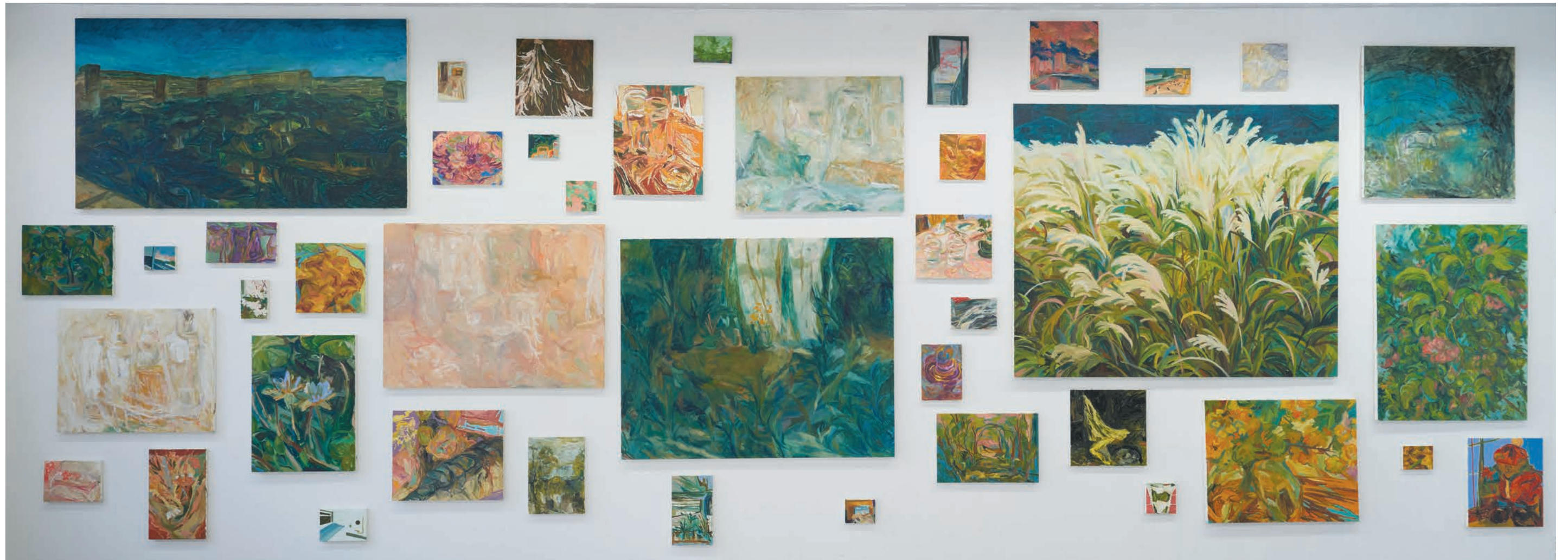
徐来

XU, Lai

私を

Make Me

自分の部屋、毎日の食事、旅行の思い出。日常で見飽きた風景、お祝いに贈った花束、友人にもらったプレゼント。私のかけらを集め、私を記録する。



Me My Mine

油彩 / キャンバス / Oil on canvas

サイズ可変 / Variable size

蔣 夢蝶

JIANG, Mengdie

「日常」の再発見

身のまわりのものをモチーフにした身体感覚と記憶の表現

Rediscovery of Daily Life

The Expression of Body Sensation and Memory Through Motifs of Things Around Us



沈殿物 / Sediment

ミクストメディア / サイズ可変 / Mixed media / Variable size

「神は死んだ」というニーチェの主張以降、ニヒリズムが盛んである時代において私はいつも自分の中に空洞があると感じている。空洞の正体は自己の維持のための世界を解釈することの参照の対象がないことだと考える。

さらに、今の私たちは忙しい日々により身の周りのものやことに実際に触れたり、見たりという意識が以前より薄くなった。それらが原因で空洞が徐々に拡大化し、身体的な実感がなく不安定さを感じる状態になった。それは、まさに記憶が欠片になったようだった。

人の存在の儚さについて、私にとって私的な経験と身体感覚は大切な要素であり、自己のアイデンティティは研究と制作の原点だと思う。記憶の中にある身のまわりの物をモチーフにし、絵画的表現と立体造形の手法により制作する。制作によって、ものから現れる私自身の身体物質性を考え、自分のアイデンティティと向き合い直し、主体性を取り戻すことを目標とする。



曹 士雅

CAO, Shiya

意識を察知していない間の制作から生まれる意味

絵画表現による自己意識の再確立

Meaning Arising from Creation without Perceived Consciousness
 Re-establishment of Self-awareness Through Pictorial Expression



Home Sick
 油彩 / キャンバス / Oil on canvas
 194 × 291 cm

日常生活で体験した「空間」「時間」「生死」そして人間の根底にある「欲望」をモチーフにして、違和感のある世界を表現しました。

「角」「渦巻」「無顔の裸像」「彗星」などを繰り返し描くことによって、この時代に生きている自分の「混乱」「矛盾」

「緊張」「不安」「寂寞」などの感情に気付き、そして解放しました。

これらの制作により自己意識を高め、再認識することができました。



Racing Thoughts
 ミクストメディア、油彩 / Mixed media and oil painting
 サイズ可変 / Variable size

高倉 七海

TAKAKURA, Nanami

欠けに捧ぐ

Pieces for the Chip



・蝶の翅が欠けたとき、輪郭が曖昧になった瞬間に強く惹かれる。

幼い頃、火曜日を生きていたと思ったら水曜日になっていたことがあった。

個人的な日付けの勘違いと言われたらそれまでだが、狭間に取り残された感覚に陥ったことがある。今でも無くなった一日のことを追い求めている。何かの形の間や、欠けてしまって、あるけどない、ないけどある存在を見つける（絵を描く、街に出る、夢を見る・・・）ことを制作のテーマとしている。

・また蝶や蛾の模倣、擬態の能力には強く感動を覚える。真似をした対象を人以上に人や植物、鳥の事を、模倣される側の本体以上に本体の本質を見抜いていると感じる瞬間がある。

模倣者、擬態者側を知ることによって、この世界の一つの本質を覗き見ることが出来ると確信している。



欠けに捧ぐ / Pieces for the Chip

アクリル絵具 / レンガ、釘 / Acrylic on brick, nail / 15 × 15 × 20 cm



Your body is yours

油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 194 × 130 cm

津田 みなみ

TSUDA, Minami

地図を描き、ルーツを知る

Drawing a Map and Knowing My Roots

「地図を描くこと」

久しぶりに故郷へ帰り街の姿を気にして見てみると、見慣れた景色についてもっと知りたいと思い、地図を読み込み描くことにした。

街の姿を想像しながら地図を描いていくと、山と川によってその地形ができていることが見えてくる。そこには人々の生活があり、文化を知り、歴史を知ることになる。

山から海へ脈々と流れる川の姿や、空を覆うように枝を伸ばす木々の姿は、生き物の血管とよく似た形をしている。それら自然の姿は我々人間に恩恵を与えてきた。歴史や文化が育われ、今日の私の体の中にも流れている。

修士論文

「地図を読む 一地形とともにみる郡上の起源ー / Reading a Map — The Origins of Gujo as Seen in Topography ー」

論文では、岐阜県郡上市の歴史を先史時代から江戸時代まで挙げると共に、郡上八幡地域の代表的文化である郡上おどりのルーツを歴史資料をもとに旧街道を沿ってたどった。さらに作品について、描く地図の土地を読み込むことで、作品にどのような影響を与えているかを述べた。そして私が生まれた土地を描くとはどのような思いで制作しているかを記述した。



私の日本地図：岐阜県郡上市長良川流域図 / My Map of Japan: Nagara River Basin, Gujo City, Gifu

石膏、膠、弁柄顔料、郡上の土、アクリル / 木製キャンバス / Plaster, glue, pigment, clay from Gujo and acrylic on wooden canvas / 396 × 297 cm

肱岡 紗弓

Hijioka, Sayumi

ここではないどこかへ

Somewhere Other than Here

印象による旅 走馬灯

自分の制作について思い悩むということは、私の記憶と相
談し合うことでもある。

過去-現在-未来 記憶の横断をあまりに多く繰り返すと
段々抽象的になっていき、印象だけで構成され始める。

次第に経験として存在しないはずの有史以前にまで及ぶ。

大理石は記憶の層

凍りついている から 夢を見る。

大理石＝絵（中の記憶と外の記憶が結晶化したもの）

絵に混入する髪や筆の毛やホコリは、

大理石のアンモナイトと同じ役割を持つ。



[" どこかへ" 向かって道を示すヤシの木の影]

・影と実像は分離する

ピーターパンでは影にアイロンをかける

・影が真実を示す時もある

吸血鬼と人間の見分け方は影があるかどうか

・影は現実を夢におこす

洞窟にて別れを惜しむ恋人の影を壁画にする

絵画の起源における伝説の1つ

現実から記憶（夢）へ

ここではないどこかへ

Somewhere Other than Here

白亜、鉛筆、アクリル絵の具、エタノール、アルコールインク / パネル

Chalk, pencil, acrylic paint, ethanol and alcohol ink on panel

72.7cm × 72.7cm



【恐竜の塗り絵】

大好きだった、恐竜がたくさんいる公園はいつの間にな
くなってしまった。

近くにあるホテル三日月のスパリゾート、龍宮城の露天風
呂から見える夕焼けの中に浮かぶ恐竜のシルエットは、
私の有史以前の記憶を揺さぶる。

・彼らのオリジナルは私たちの記憶の中にしか存在しない。
所謂恐竜は、こんな姿であろうという私たちの夢が可視化
されたもの。

なので彼らは現実に現れた夢。そして彼らが帰る所は有史
以前という記憶の世界である。

・オリジナルを知らないという事は、細部を知らないとい
う事。彼らは私たちの世界において初めからデフォルメ化
されている。

色も印象という枠の中で自在に操ることができる。

記憶（夢）が現実に

富 忠萍

FU, Zhongping

北宋理学思想に基づくオートマティスム絵画についての研究

現代心理学における治癒性の研究と表現

Research on Northern Song's Neo-Confucianism Based Automatism Painting
Healing Expression by Art in Modern Psychology



境 / Boundary
アクリル、ペン、膠 / パネル、和紙 / Acrylic, pen and glue on panel and Japanese paper / 196 × 130 cm



境 / Boundary
アクリル、ペン、クレヨン、膠 / パネル、和紙
Acrylic, pen, crayon and glue on panel and Japanese paper
53 × 45.5 cm

本論文は絵画の面からアプローチして、現代心理学においての治癒性を探求していく。芸術療法に新たな視点を提示でき、新たな東方的な治癒性を持つ絵画を成り立たせることを目的とする。

現代心理学において、東洋思想哲学の影響力がますます増加しており、仏教を原点としたマインドフルネス療法と日本を原点とした森田療法や内観認知法は世界中に普及されている。筆者は中国生まれ育ちの背景を持つため、絵画の治癒性に導かれる東洋思想に影響されている。それは儒教仏教道教の融合体としての北宋理学思想である。筆者は制作中に常に内面を客観的に観察し、北宋理学思想の動と静の変換とその森羅万象がその理屈に応じて働いているという宇宙観で内面の矛盾、問題、無秩序を調和する過程を再現していた。このような制作は自分の内面への治癒が成し遂げたと考えている。東方的な治癒性を絵画に通じて芸術療法の中の可能性を提示することにつながる。



境 / Boundary
アクリル、ペン、クレヨン、膠 / パネル、和紙
Acrylic, pen, crayon and glue on panel and Japanese paper
53 × 45.5 cm

そこで、いかに精神世界を観察し、その結果を現実世界に再現するかが問題となった。アンドレ・ブルトンによりオートマティスムはシュルレアリスムの基盤を築き、その根源とはフロイトの精神分析により患者内面の無意識を探索するために提出した自由連想という方法である。元々精神世界を癒すためのオートマティスム絵画はシュルレアリスムにより芸術表現を充実するための使い道から再びその中に潜む治癒性を探っていくことになった。絵画プロセスの第一段階は、オートマティスムにより無意識の表出による治癒性であり第二段階では北宋理学思想による意識の関与で、第一段階に表出した混沌な画面を一体化し、調和していく。その方法と東洋思想が絵画において治癒性をもたらすという結果を本論文において示していく。芸術療法に新たな視点を提示できる価値があり、新たな東方的な治癒性を持つ絵画を成り立てることに明らかにする。

藤井 智子

FUJII, Tomoko

水の土と

Soil, Water, and Painting as a Dialogue



土をみて水をみず、みずをみて土を水 / It is neither soil nor water, but water is soil and soil is water

ミクストメディア / サイズ可変 / Mixed media / Variable size



水と土のフィールドワークと、「水の土」から始まった一連の視覚を閉ざして描く経験を通して強く感じたのは、触れ触れられる「ふれ合う」ということだった。

ある存在と異なる存在が触れ合った時、音や摩擦や熱や瞬間や位置が、その周りの存在とは少し何かが変化した状態で、痕跡や形としてあらわれる。

「異質な存在がふれ合うことによりあらわれる」そのことは「ふれ合うこと」が、絵の根源であるともいえるだろう。それは対話としての絵であり、生きて産んで死ぬことでもある。

日常には、みえない絵が、存在しては消えている水の土の存在のように、永遠に描き続けられることだろう

松宮 うらら

MATUMIYA, Urara

山

Mountain

普段山の絵を描いて過ごしていますが、山に登って山を描いていても、山に登ることは絵の為のリサーチではありません。よく美術家は作品の為にリサーチを行い制作をしますが、私は逆で山に行って気分が盛り上がった結果絵を描くことになります。山に登るということは日本列島を移動するということで、付随して各地の暮らしや町の様子、

歴史の断片を目にすることができます。その中でとりわけ私が興味が湧くのが信仰の姿です。都会で育った私は、信仰といえば神社やお寺、教会の中で見えない何かに対して行われているように感じていましたが、一度外に出てみると、実際に信仰の対象が身近にあるような暮らしに馴染んだ・場所に馴染んだ信仰があることがわかりました。



さんらん / Sanran
インスタレーション、ミクストメディア / Installation, mixed media
サイズ可変 / Variable size

矢野 希実

YANO, Kimino

記憶と共感

Memory and Empathy

印象に残った日々の出来事を日記のように描き留めている。



のんきな花 / Carefree Flower / ミクストメディア / Mixed media / 53 × 45.5 cm
頑張る山 / Mountain to Do My Best / ミクストメディア / Mixed media / 10 × 10 cm
隙を見てKiss / Kiss in the chance / ミクストメディア / Mixed media / 23 × 28 cm



展示風景 / Installation view



殴ってもKISS!! / Fight and Kiss!!
クリアジェッソ、パステル / パネル / Clear gesso and pastel on panel / 273 × 227.5 cm

山口 彩紀

YAMAGUCHI, Saki

詩情をはらんだ絵画たち

Paintings Full of Poetry

詩を書くように絵を描いています。

「美しい芸術作品を ひとつ

たったひとつでいい

生み出してしまいたい

長い長い 苦しみながら ボソボソの 作品しかできないのなら

いっそ 遠くへ離れて 暮らしたい

作品を全て投げてしまって 遠くに隠れて 逃げてしまいたい

短い時間でいい あついあつい 絵の具をぶつけられるのなら
もうそれで終わりでいいかな

短く ブツッ ブツッ ブツッと あなたを生み出し

へそのを 切ってやれるなら

あなたごと さっさと切ってしまいたい」



もものうろこ / Peach Scales
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 162 × 130.3 cm



山のすその / Mountain Foot
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 162 × 259 cm



静かな地と流れる髪 / Quiet Ground and Flowing Hair
油彩 / キャンバス / Oil on canvas / 194 × 130.3 cm

李 果馨

LI, Guoxin

「水面に浮かぶ人影」

彼岸と此岸の境界線

Figures Walking on the Water

The Border between the Living and the Dead



入り口 / Entrance
ミクストメディア / Mixed media
250 × 160 × 160 cm

今回の作品では、洞窟の基本構造を模倣する。

実際の洞窟の構造や仏像の配置は非常に複雑だが、この作品では最も象徴的な藻井、中央の像、壁画、低い出入り口だけを残して空間を作る。

作品の壁画部分は、大学院在学中に制作した一連の平面作品「水面に浮かぶ人影」が土台になっている。

生者の世界と死者の世界をつなぐ川には、人間と人間以外の白い像が描かれている。

三途の川も白い人物も、生と死の境界線上にあるものと考え。洞窟の形も、境界線の上にある概念だと思う。

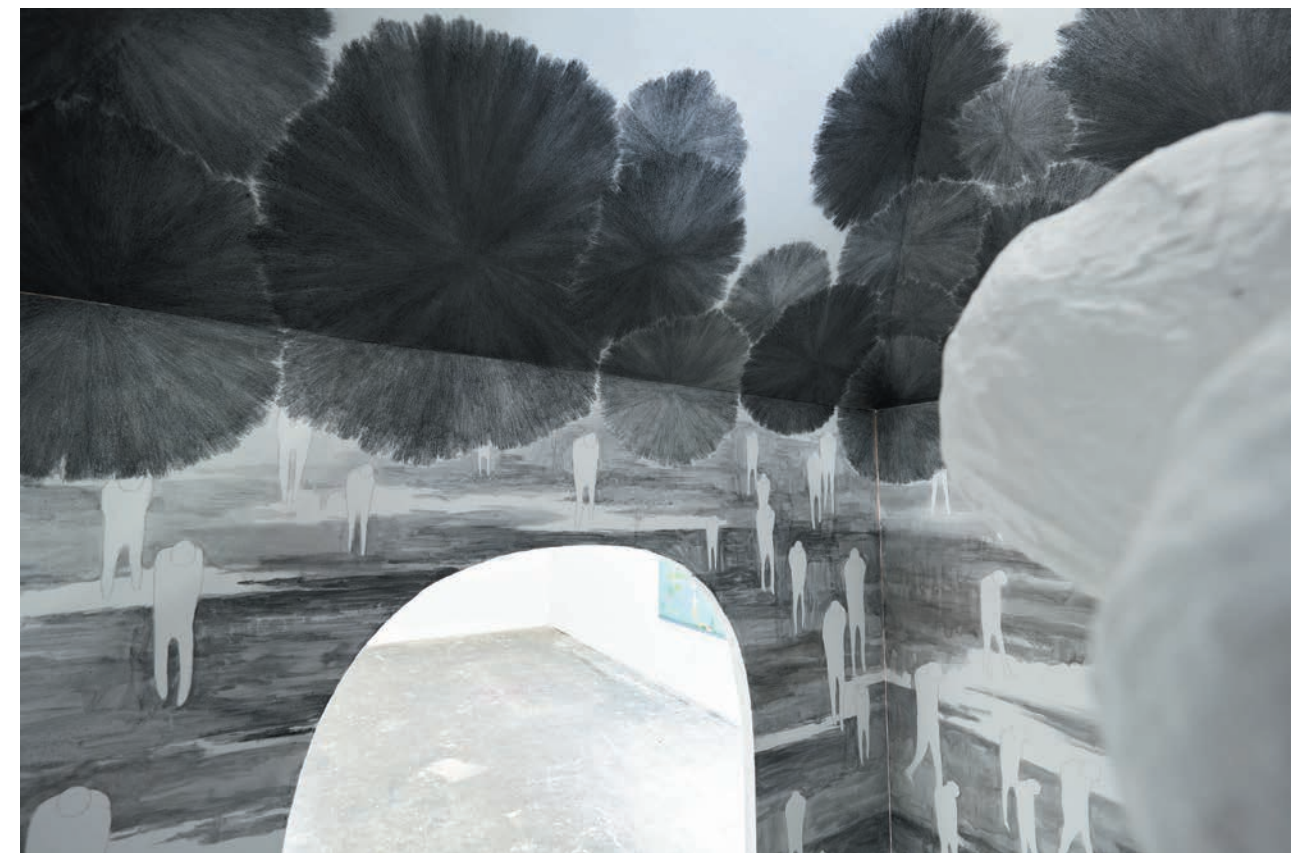
(私は、洞窟を「埋葬された墓」と「地面の上に建てられた建物」の中間的なものと考えています。)

2019年ころに、敦煌を見学に行った。私がよく覚えているのは、複雑な壁画や美しい仏像ではない。

洞窟に入った瞬間は、「私たちが住んでいる世界とはまったく違う世界に入った」という感覚が強かった。

それゆえに、「入り口」という名前付けをした。

そのときの衝撃を、見る人に伝えたいという願いがある。



李 燦辰

LI, Canchen

再魔術化現象の存在意義

自作研究における理性と神秘の関係について

The Significance of the Re-enchantment Phenomenon
The Relationship between Reason and Mystery in Self-Creative Research

神秘主義の役割は、科学的合理主義がもたらすあらゆる問題に対する警鐘である。絵画や現代美術において、芸術の均質化、表現の過剰な追求による精神の喪失、テクノロジーの絵画への影響などが、私は常に関心を持っている問題である。

絵画の歴史には多くの危機があり、カメラ、デジタル絵画、最近ではAI生成絵画などが絵画に影響を与えており、それらの影響で「絵画は滅びてしまう」という話を何度も聞いたことがある。

私にとって、絵画という行為は本能であり、自分から世界に語りかける手段であるため、絵画がどのような危機にあっても、置き換えることはできないと思っている。規則や合理性で覆われた表層を通り抜け、別の方法で世界を解釈し、精神的な視点から見た自分の世界観を表現したいのである。この制作動機は、神秘主義の本来の意味「身体を目を閉じながら心の目を開くことで、心の目が外界の雑念から遮断され、心の奥底に戻り、頭だけでは理解できない不思議で未知なる力を悟ること」と一致している。人々の

「知りたい」という欲求は、テクノロジーやミステリーの領域から、繰り返し真理を探究することになるのである。

とはいえ、神秘主義ばかりを望んでいるわけではなく、理性と神秘は対立し、補い合う存在だと考えている。ダイアン・アポストロス・カッパドナが言うように、「私にとって精神の平衡——あらゆる創造活動にとって不可欠の条件——は科学的性格の研究と文学的想像の間を、このように揺れ動くことで保たれた」であり、その二律背反の関係を自分の作品にも見だし、反映させたい。

左から順に作品情報

創造の柱 / Pillars of Creation

染料、顔料 / キャンバス / Pigment and dye on cotton cloth / 227 × 182 cm

異世界の残像 / The Remnant of Strange World

染料、顔料 / キャンバス / Pigment and dye on cotton cloth / 259 × 194 cm

リビングトーチ / Living Torch

染料、顔料 / キャンバス / Pigment and dye on cotton cloth / 227 × 182cm

余韻 / Reverberation

染料、顔料 / キャンバス / Pigment and dye on cotton cloth / 500 × 210 cm



異世界の残像 / The Remnant of Strange World

染料、顔料 / キャンバス / Pigment and dye on cotton cloth / 259 × 194 cm / 2022.11



冷 一夫

LENG, Yifu

「キャラクター」の液体化

Character Fluidity



「サメとイチゴ」/「Strawberry with Shark」
 アクリル / キャンバス / Acrylic on canvas / 100 × 80.3 cm (2 点)



キャラクターの「液体化」についていろいろ試みをしまし
 た。



「サメとイチゴ」(星空) / 「Strawberry with Shark」(Starry Sky)
 アクリル / キャンバス / Acrylic on canvas / 162 × 130.3 cm



「サメとイチゴ」(潤) / 「Strawberry with Shark」(Run)
 アクリル / キャンバス / Acrylic on canvas / サイズ可変 / Variable size